フリガナ		アオヤマ　シンジ
氏　　名		青山　眞二
学 位 等		教育学修士
担当科目		1. 知的障害者の心理・生理・病理 2. 知的障害教育Ⅰ 3. 知的障害教育Ⅱ
業績	著 書	（2010年以降の著書） 1. 自閉症教育基本用語辞典～K-ABC、同一性保持、被転導性、不登校、小林重雄監修、青山眞二（分担執筆）、学苑社（2012） 2. 日本版KABC-Ⅱマニュアル、藤田和弘・石隈利紀・青山眞二・服部環・熊谷恵子・小野純平、丸善出版（2013） 3. 日本版KABC-Ⅱ換算マニュアル、藤田和弘・石隈利紀・青山眞二・服部環・熊谷恵子・小野純平、丸善出版（2013） 4. デキる「特別支援教育コーディネーター」になるための30レッスン＆ワークショップ事例集、小野寺基史･青山眞二･五十嵐靖夫編著、明治図書（2014） 5. エッセンシャルズ　KABC-Ⅱによる心理アセスメントの要点、藤田和弘・石隈利紀・青山眞二・服部環・熊谷恵子・小野純平、丸善出版（2014）
	論 文	（2010年以降の学術論文） 1. 重度・重複障害児の個別指導の在り方～「生活」「発達段階」「コミュニケーション」に重点を置いた指導を通して、佐藤麻里子・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 60(2): 71-82、(2010) 2. 高等養護学校におけるソーシャルスキルトレーニングの在り方について～個別学習におけるビデオモデリングとグループ学習を組み合わせた指導の試み～、益山友和・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 61(2): 131-144（2011） 3. 日本版KABC-Ⅱの理論的背景と尺度の構成、藤田和弘・石隈利紀・青山眞二・服部環・熊谷恵子・小野純平、K-ABCアセスメント研究 13: 89-99（2011） 4. 知的障害高等養護学校におけるソーシャルスキルトレーニングの在り方について～グループ学習におけるビデオモデリングと個別学習を組みわせた指導の試み、益山友和・青山眞二、北海道特別支援教育研究 5(1): 13-26（2011） 5. 生態学的調査に基づく自閉症のコミュニケーション指導、永長明之・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 62(2): 29-44（2012） 6. 自閉症児の行動連鎖を妨げる要因のエコロジカルな分析と指導

		の展開～特別支援学校での登校後の荷物整理と着替え場面を通して～、太田千佳子・青山眞二、特殊教育学研究 50(4): 393-401（2012） 7. A 市教育委員会における就学判断に関する一考察～就学指導から就学後 1 年間の追跡調査を通して、大塚千恵・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 64(1): 295-310（2013） 8. 小学校特別支援教育コーディネーターにおける連絡調整機能に関する考察、村田敏彰・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 64(1): 333-348（2013） 9. 特別支援学級での『拒否カード』による自己決定～友達に対して拒否を表明する指導の試み～、久蔵幸生・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 64(1): 311-321（2013） 10. 自閉症スペクトラム児童の自己決定指導～特別支援学級での拒否カードを使用した取り組み、久蔵幸生・青山眞二、自閉症スペクトラム研究 11(1): 57-65（2013） 11. アセスメント、指導、校内支援体制の構築を 1 パッケージとした特別支援教育研修の実施とその評価、小野寺基史、青山眞二、五十嵐靖夫、LD 研究 22(4): 432-444（2013） 12. KABC-Ⅱの結果に基づく ADHD 児の指導～読み・書き・計算課題の個別指導を通した学習態度の形成～、青山眞二、仲間泰子、K-ABC アセスメント研究 Vol.15、81-89（2013） 13. 就学相談の現状と課題に関する一考察～I 管内 5 市の就学相談を通して～、大塚千枝子・青山眞二、北海道教育大学紀要・教育科学編 65(1): 311-321（2014） 14. J.Internal Consistency and Factor Structure of the Japanese Kaufman Assessment Battery for Children, Hattori, T., Fujita, K., Ishikuma,T., Aoyama,S., Kumagai, K., & Ono,J., The 49th APS Annual Conference Chancellor (Australia),2014 15. 高機能自閉症の学習支援に焦点を当てたコンサルテーション～KABC-Ⅱと WISC-Ⅳに基づく指導方法の検討、岩山カイナ、青山眞二、K-ABC アセスメント研究 Vol.17、15-22（2015） 16. The Flynn effect on cognitive ability tests for children in Japan., Hattori, T., Fujita, K., Ishikuma,T., Aoyama,S., Kumagai, K., & Ono,J., The 17th European Conference on Developmental Psychology(Braga, Portugal),2015 17. 日本版 KABC-II の尺度構成と信頼性、服部環・藤田和弘・石隈利紀・青山眞二・熊谷恵子・小野純平、日本教育心理学会第 57 回総会(新潟)、2015 18. 簡易チェックリストを活用した子供理解と授業改善の試み、白府士孝、青山眞二、日本特殊教育学会仙台大会・ポスター発表（2015） 19. 特別支援教育コーディネーターの連絡調整上の工夫に関する考察～苦慮事例における関係者間の関係改善プロセス、村田敏彰、青山眞二、特殊教育学研究 54(1)，(2016)

		20. KABC-Ⅱの新しい解釈～プロフィール分析からクラスター分析へ、服部環、青山眞二、K-ABC アセスメント研究 18,（2016） 21. 小 4 児童のプランニングの高さを活用した学習の定着に関する検討～KABC-Ⅱと WISC-Ⅳからの解釈と支援、岩山カイナ、青山眞二、K-ABC アセスメント研究 18,（2016） 22. 特別支援学級に在籍する自閉症児への作文指導～子どもの「できた」を引き出すための長所活用型指導の試み、白府士孝、青山眞二、K-ABC アセスメント研究 18,（2016） 23. 特別支援教育における教科指導の研究動向、庄子果那、青山眞二、北海道特別支援教育学会釧路大会・ポスター発表、（2016） 24. 特別支援教育の連携に関する過去 10 年間の研究動向、岡崎茜、青山眞二、北海道特別支援教育学会釧路大会・ポスター発表、（2016） 25. 通常学級における特別支援教育の在り方、青山眞二、太田千佳子、小川英子、橋本千賀子、北海道特別支援教育学会釧路大会・自主シンポジウム、（2016） 26. 日本版 KABC-Ⅱを活用した支援の在り方、青山眞二、伊澤幸洋、鳥居深雪、熊上崇、小野純平、日本 K-ABC アセスメント学会・福山大会企画シンポジウム、（2016） 27. 通常学級における特別支援教育の実際Ⅰ、青山眞二、太田千佳子、小川英子、上野樹、日本特殊教育学会・新潟大会自主シンポジウム、（2016）
	その他	（2010 年以降のその他の業績） 1. リレーエッセイ「人生、何とかなるさ」、青山眞二、発達教育 Vol.29 No.3（2010） 2. 日本 KABC-Ⅱにおける下位検査の構成、青山眞二、指導と評価(675),47-49（2011） 3. 心理アセスメントの実際～WISC-Ⅳ、青山眞二、児童心理（2011） 4. 自閉症教育を見直す「社会性を育てる支援のポイントとは」、青山眞二、自閉症教育の実践研究 5(1),32-35（2012） 5. 子どもに寄り添い、実践を高める多面的アセスメント、青山眞二、特別支援教育研究 No.668、P2~P7（2013） 6. 書評「実践・通常学級ユニバーサルデザイン」、青山眞二、特別支援教育研究 No.685、p57 (2014) 7. 発達障害児に対するＫＡＢＣ-Ⅱの教育的活用、青山眞二、指導と評価 12 月号、(2014) 8. KABC-Ⅱの概要と指導に生かす解釈のポイント、青山眞二、実践障害児教育、No.502,24-25（2015）

フリガナ		アベ　ミホコ
氏　　名		阿部　美穂子
学 位 等		1. 富山大学教育学研究科　教育学修士（1999/03） 2. 東北大学教育学研究科　教育学博士（2016/03）
担当科目		1. 重複障害者の教育課程及び指導法
業績	著 書	1. 肢体不自由教育シリーズ2「コミュニケーションの支援と授業作り」（共著）（2008） 2. 障がいの重い児（者）が求めるムーブメントプログラム: MEPA-ⅡRの実施と活用の手引（共著）（2014） 3. Movement Education and Therapy Program Assessment －ⅡRevised（MEPA-ⅡR、重症児（者）・重度重複障がい児のムーブメント教育・療法プログラムアセスメント）（共著）（2014）
	論 文	1. 重症心身障害児のVOCAを用いた要求行動獲得に関する研究－感覚運動ムーブメント活動の活用－（単著）（2010） 2. 重度重複障害児のムーブメント活動による理解語いの獲得を目指した実践研究（単著）（2011） 3. 重度・重複障害のある子どものきょうだいとその家族のための支援プログラム開発に関する実践的研究（共著）（2015） 4. 重症心身障害のある子どものきょうだいの同胞観に関する研究：中高生のきょうだいの作文分析による（単著）（2015）
	その他	1. 論説「校内研修の現状と課題」（単著）（2014） 2. 論説「学ぶ楽しさを生み出す授業作りに活かす個別の指導計画」（単著）（2016） 3. 発達障害の子どもの不器用さについて（単著）（2017）

フリガナ		アベ　ヨシノブ
氏　　名		阿部　吉伸
学 位 等		北海道教育大学札幌校教育学研究科修了　教育学修士（1999/03）
担当科目		1. 木材工芸
業績	著 書	
	論 文	1. 北海道における木材工芸についての一考察～熊をモチーフとした地域の伝統工芸について（単著）（2007） 2. 地域における伝統工芸の継承についての一考察～北海道の熊彫りのルーツ（単著）（2008） 3. 地域における工芸文化の継承に関する検証～熊をモチーフとした北方圏における工芸品の可能性（単著）（2014）
	その他	

フリガナ		イゲタ　マサオミ
氏　　名		井桁　雅臣
学 位 等		北海道教育大学教育学部札幌分校特設美術科卒業　教育学士（1988/03）
担当科目		1. 絵画Ⅲ
業績	著 書	1. さっぽろ市民文芸　（共著）（2010）
	論 文	
	その他	1. 六花ファイル第３期収録作家　入選（2011） 2. 第 22 回道銀芸術文化奨励賞受賞（美術）　財団法人道銀文化財団（2012） 3. 六花ファイル第６期収録作家　入選（2016）

フリガナ		イシダ　ヒサオ
氏　　名		石田　久大
学 位 等		1. 東京藝術大学音楽学部声楽科　学士（1976）
担当科目		1. 声楽表現演習Ⅰ 2. 声楽表現演習Ⅱ 3. 合唱Ⅰ 4. 合唱Ⅱ
業績	著 書	1. 地域連携と学生の学び：北海道教育大学旭川校の取り組み（協同出版）（共著）（2013） ※「おもしろオペレッタ『金の子犬、銀の子犬』公演による地域小中学校への貢献とその教育的効果」を担当 2. 実践しながら学ぶ子どもの音楽表現（保育出版社）（共著）（2009） ※「歌うことを中心とした音楽表現」「歌唱法」を担当
	論 文	1. 小・中学校音楽科授業におけるアイヌ歌謡の教材化 北海道教育大学紀要 62 巻 9 頁（共著）（2011）
		1. オペレッタ制作　台本作成「金の子犬、銀の子犬」科研費研究（基盤研究（C））2007～2009（伝統的な歌唱法を生かした、小、中学校音楽科授業のためのアイヌ歌謡の教材化） 2. 教材用ＤＶＤ作成「近文のアイヌ舞踊と歌謡」科研費研究費 2010～2013（基盤研究 C）（伝統的な歌唱法を生かした、小、中学校音楽科授業のためのアイヌ歌謡の教材化） 3. オペレッタ制作　台本作成「金の子犬、銀の子犬」科研費研究（基盤研究Ｃ）2012～2015（鑑賞教材としてのアイヌ語音楽劇創作と、その公演の教育的効果についての研究） 〈演奏・指揮〉 1.（指揮）第 62 回旭川合唱祭『女声合唱組曲「からたちの花」から青い小鳥　花野』（旭川市民文化会館大ホール）　2016/06 2.（指揮）女声合唱指揮『女声合唱曲「からたちの花」より青い小鳥　遥かな歩み』（小樽市民会館大ホール）　2016/07 3.（合唱）ポールソーヌス第 8 回演奏会『デュルフレ「レクイエム」』（札幌市生涯学習センター　ちえりあホール）　2016/07

	その他	4.（バリトン独唱）S47年東京藝術大学声楽科同期会演奏会『シューベルト作曲　至福、月に寄せて』（札幌市教育文化会館小ホール）　2016/08 5.（演出）親子で楽しめる　おもしろオペレッタ「シマフクロウの伝言」『おもしろオペレッタ「シマフクロウの伝言」』（旭川市民文化会館小ホール）　2016/09 6.（バリトン独唱）ローベルト・シューマンの夕べ『R．シューマン作曲「詩人の恋」全曲』（渡辺淳一文学館）　2016/09 7.（バリトン独唱）ドイツ歌曲コンサート『R．シューマン「詩人の恋」全曲』（旭川市神楽公民館　木楽輪）　2016/10 8.（バリトン独唱）ほのぼのコンサート『中山晋平作曲　波浮の港　木下牧子作曲　さびしいカシの木』（札幌市苗穂本町地区センター　ホール）2016/10 9.バリトン独唱）第3回　クリスマス公演『メサイア　バス独唱』（旭川市大雪クリスタルホール音楽堂）　2016/12 10.（バリトン独唱）バリトンとピアノ　クリスマスコンサート『R．シューマン「詩人の恋」抜粋　モーツアルト作曲「もう飛ぶまいぞこの蝶々」他』（ヘア＆メイクアップ　ジーノ）2016/12 11.（バリトン独唱）バッハを歌う会　第5回演奏会　クリスマスコンサート『J・S・バッハ作曲　BWV78「傷、釘、茨の冠、そして墓」他』（日本キリスト教団旭川星光教会）2016/12 12.（バリトン独唱）アートパフォーマンス　in 赤れんが『シューベルト歌曲　菩提樹　セレナーデ　野ばら』（道庁赤れんが庁舎2階2号会議室）　2017/01

フリガナ		イシハラ　トオル
氏　　名		石原　暢
学 位 等		1. 北海道大学理学部数学科　学士（理学）（2011 年 3 月） 2. 北海道大学大学院教育学院　修士（教育学）（2014 年 3 月） 3. 北海道大学大学院教育学院　博士（教育学）（2017 年 3 月）
担当科目		1. 生理学
業績	著 書	
	論 文	1. **Ishihara, T.**, Sugasawa, S., Matsuda, Y., & Mizuno, M. (2017). Relationship between sports experience and executive function in 6–12-year-old children: independence from physical fitness and moderation by gender. *Developmental Science*. doi:10.1111/desc.12555 2. **Ishihara, T.**, Sugasawa, S., Matsuda, Y., & Mizuno, M. (2017). The beneficial effects of game-based exercise using age-appropriate tennis lessons on the executive functions of 6- to 12-year-old children. *Neuroscience Letters, 642*, 97-101. doi:10.1016/j.neulet.2017.01.057 3. **Ishihara, T.**, Sugasawa, S., Matsuda, Y., & Mizuno, M. (2016). Improved executive functions in 6–12-year-old children following cognitively engaging tennis lessons. *Journal of Sports Sciences*. doi:10.1080/02640414.2016.1250939 4. Morita, N., Nakajima, T., Okita, K., **Ishihara, T.**, Sagawa, M., & Yamatsu, K. (2016). Relationships among fitness, obesity, screen time and academic achievement in Japanese adolescents. *Physiology & Behavior, 163*, 161–166. doi:10.1016/j.physbeh.2016.04.055
	その他	学会発表抄録 1. **Ishihara, T.**, Sugasawa, S., Matsuda, Y., & Mizuno, M. (2016). Relationship between tennis experience and executive function in male children, independent of physical fitness level. *Medicine & Science in Sports & Exercise, 48*(5S), 723. 2. **Ishihara, T.**, Sugasawa, S., Matsuda, Y., & Mizuno, M. (2015). The effect of different types of tennis lesson on executive function in junior tennis players. *Medicine & Science in Sports & Exercise, 47*(5S), 675. 3. **Ishihara, T.**, Tomita, Y., & Mizuno, M. (2014). The effect of physical activity on cognitive function and heart rate variability in elderly individuals. *Medicine & Science in Sports & Exercise, 46*(5S), 241. 受賞 1.　北海道体育学会 第 56 回大会 若手研究者賞 2.　第 27 回 日本テニス学会 研究奨励賞

フリガナ		イトウ　タカシ
氏　　名		伊藤　崇
学 位 等		1.　筑波大学大学院心理学研究科　心理学修士（2001/3） 2.　筑波大学　博士（心理学）（2016/3）
担当科目		1. 教育心理学（幼・小） 2. 教育心理学特論　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1. 卒論・修論をはじめるための心理学理論ガイドブック　ナカニシヤ出版　夏堀睦・加藤弘通（編）（共著）（2007） 2. 社会と文化の心理学：ヴィゴツキーに学ぶ　世界思想社　茂呂雄二・田島充士・城間祥子（編）　（共著）（2011） 3. ひとつ上をいく卒論・修論を書くための心理学理論ガイドブック　ナカニシヤ出版 山本睦・加藤弘通（編）（共著）（2011） 4. ワードマップ　状況と活動の心理学―コンセプト・方法・実践―　新曜社　茂呂雄二・有元典文・青山征彦・伊藤崇・香川秀太・岡部大介（編）（共著）（2012） 5. 新教職教育講座　第7巻　発達と学習　協同出版　櫻井茂男・茂呂雄二（編著）（共著）（2013）
	論 文	1. 集団保育における年少児の着席行動の時系列分析：「お誕生会」の準備過程を対象として　発達心理学研究，22，63-74. 伊藤崇（単著）（2011） 2. 小学校の一斉授業における教師と児童の視線配布行動　社会言語科学，14，141-153. 伊藤崇・関根和生（共著）（2011） 3. 保育所での活動間移行過程における子どもたちによる呼びかけ行動の分析　子ども発達臨床研究，5，1-11. 伊藤崇（単著）（2014） 4. 幼児期における文字表現と文字使用：絵本作り活動における文字の機能から　心理科学，35，53-63. 松本博雄・伊藤崇・常田美穂・三原菜月（共著）（2014） 5. 幼児による家族内会話への傍参与の協同的達成　認知科学，22，138-150. 伊藤崇（単著）（2015）
	その他	1. 養育実践を学校に導入するために　北海道大学大学院教育学研究院紀要，113，21-25. 伊藤崇（単著）（2011） 2. 浜田寿美男著『私と他者と語りの世界』　法と心理，10(1)，159-160. 伊藤崇（単著）（2011） 3. 待てない私たちが待つために：7人の発表者へのコメントとして　子ども発達臨床研究，6（特別号），69-72. 伊藤崇（単著）（2014）

フリガナ		イマルオカ　リョウタ
氏　　名		伊丸岡　亮太
学 位 等		1. 筑波大学体育専門学群(2010/3)
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（陸上競技）　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	
	論 文	1. 日本学生一流女子走幅跳選手における競技記録および各種垂直跳パフォーマンスの変化―大学３年生から４年生まで―（共著）（2014） 2. 北海道江別市内の小学生および中学生を対象とした陸上競技教室の実践報告（共著）（2014）
	その他	1. 日本学生一流走幅跳選手における個人内での跳躍距離と踏切準備および踏切時のキネマティクスとの関係」（共著）（2012） 2. 平成 27 年度宗谷管内スポーツ指導者研修会『体力向上に結びつく走運動について』を担当（2015）

フリガナ		イム　ヨンジェ
氏　　名		任　龍在
学 位 等		1. 筑波大学大学院人間総合科学研究科　修士(心身障害学)(2007/03) 2. 筑波大学大学院人間総合科学研究科　博士(障害科学)(2011/05)
担当科目		1. 病弱者の心理・生理・病理 2. 重複障害者の心理・生理・病理
業績	著 書	1. 特別支援教育基礎論(共著)(2015) 2. よくわかる肢体不自由教育(共著)(2015)
	論 文	1. 肢体不自由養護学校における重複障害学級担任教師のとらえる職務特性と職務満足感に関する研究－特殊教育教職経験に着目して－(共著)(2007) 2. A Study on Teachers' Perceived Job Characteristics and Satisfaction for Children with Severe and Multiple Disabilities in School for the Physically Challenged(単著)(2007) 3. Development and Problems of IEP Forms in Japanese Special School: Focusing on Department of Education for the Physically Challenged(単著)(2009) 4. 肢体不自由教育と病弱教育における重度・重複障害教育の研究動向と課題－日本特殊教育学会発表論文集に着目して－(共著)(2009) 5. Effects of Teaching Experience and Curriculum on Teachers' Professionalism in Education of Children with Severe and Multiple Disabilities(共著)(2010) 6. 重度・重複障害教育におけるベテラン教師の職能成長－男性教師のキャリア・ヒストリーに着目して－(共著)(2012) 7. ホーチミン市における重複障害児の教育に対する保護者のニーズ(共著)(2015) 8. ベトナム人大学生の肢体不自由児イメージおよび肢体不自由教育観－特殊教育学部の学生を対象に－(共著)(2016)
	その他	1. 障害児をもつ母親の QOL とソーシャルサポートに関する日韓比較研究(単著)(2013)

フリガナ		イワタ　ミチル
氏　　名		岩田　みちる
学 位 等		1. 北海道大学　教育学部教育学科　教育学学士（2009/03） 2. 北海道大学大学院　教育学院　教育学修士（2011/03）
担当科目		1. 教育心理学
業績	著 書	1. 医療スタッフのための LD 診療・支援入門（分担執筆）（2016）
	論 文	1. 二次障害を呈した読み困難児に対する包括的支援の重要性（共著）（2015） 2. 読み書き困難児に対する指導の一例（共著）（2015） 3. 発達性ディスレクシアにおける Rey 複雑図形と文字の書き写しの関連性（共著）（2015） 4. 語用能力の評価における比喩皮肉文テストの有用性について（共著）（2016） 5. 特異的言語障害を伴う発達性ディスレクシアの 1 例（共著）（2016） 6. An excerpt from an eye-tracking comparative study between Poland and Japan with the use of Force Concept Inventory （共著）（2017）
	その他	1. 読み能力と「音韻障害」についてープロソディ知覚を用いた検討ー（共著）（2016） 2. 思春期～青年期ディスレクシアの質問紙作成と診断基準の策定（共著）（2016） 3. 発達心理学・再入門（共著・翻訳）（2017）

【別紙様式】

フリガナ		オカモト　マリコ
氏　　名		岡元　眞理子
学 位 等		1. 国立音楽大学音楽学部声楽科卒業　芸術学士・音楽学士（1974/03）
担当科目		1. ソルフェージュ
業績	著 書	1. 音楽と生活（単著）（1996/04）エーデルワイス音楽企画出版 2. 音楽と育ち音楽と生きる（単著）（1997/06）エーデルワイス音楽企画出版
	論 文	1. 音楽教育発祥とその意図すること（単著）（2013/03）北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第 13 号 pp.101-116 2. 声楽指導におけるソルフェジョの考察（共著）（2014/03）北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第 14 号 pp.155-168 3. 音楽を聴く－フィールド・レコーディングを通して見る世界（共著）（2014/03）北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第 14 号 pp.145-154 4. 賛美歌の変遷とその考察（共著）（2014/03）北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第 14 号 pp.123-144 5. 声楽教則本「ヴァッカイ」と「サルバトーレ・マルケージ」“ヴォーカリーゼ”習得法比較考察（共著）（2015/03）北翔大学生涯学習システム学部研究紀要第 15 号 pp.115-130 6. 北の自然が育んだ歌曲における一考察（共著）（2016/01）北翔大学教育学部研究紀要創刊号 pp.27-44
	その他	

フリガナ		カクタ　シゲコ
氏　　名		角田　成子
学 位 等		北海道教育大学教育学部　教育学士（1977/03）
担当科目		1. 家庭科指導法Ⅰ 2. 家庭科指導法Ⅱ 3. 家庭科指導法Ⅲ 4. 家庭 5. 家庭科指導法
業績	著 書	1. 指導要録記入のポイントと文例５年（家庭科及び特別活動） 小五教育技術３月号増刊（共著）（2017）
	論 文	1. 生きる力をはぐくむ授業改善への挑戦（共著）（2011） 東京海上日動教育研究助成事業　学校研究部門
	その他	

フリガナ		カトウ　タカシ
氏　　名		加藤　隆
学 位 等		1. 北海道教育大学大学院　教育学修士（1995/3） 2. 北海道大学大学院文学研究科　博士後期課程単位取得退学（2006/3）
担当科目		1. 道徳教育論（小）
業績	著 書	1. さわやかマナー　玉川大学出版会（共著）（2003） 2. 北海道教育関係質疑応答集　ぎょうせい（共著）（2008） 3. 美しい刻（とき）　アートヴィレッジ（単著）（2013）
	論 文	1. 道徳教育の接点としての宗教性（単著）（2004） 2. 公立学校における宗教的情操の育成の可能性（単著）（2006） 3. 成熟社会に必要な「死を見据えた教育」（単著）（2006） 4. 学校と地域連携の構築に関する研究～フィンランドとの比較研究における序章～（共著）（2009） 5. 地域に根ざした教育の課題と可能性　～道内の自主夜間中学を中心として～（単著）（2013） 6. 道徳教育の根本精神に関する一考察～「人間尊重の精神」と「生命に対する畏敬の念」を中心として～（単著）（2015）
	その他	1. 書評　『リコーナ博士のこころの教育論－<尊重>と<責任>を育む学校環境の創造－』Thomas Lichona 著 三浦正訳（慶應義塾大学出版会）（1998） 2. 書評　『戦後教育のなかの道徳と宗教』貝塚茂樹著（文化書房博文社）（2007）

【別紙様式】

フリガナ		カワバタ　シゲオ
氏　　名		川端　茂夫
学 位 等		1. 日本体育大学　体育学士(1973/03)
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（器械運動）　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1.「運動部活動顧問のための指導ハンドブック」(北海道高等学校体育連盟)（共同研究）(2002) 2.「運動部活動顧問のための安全対策マニュアル」(北海道高等学校体育連盟)（共同研究）(2008)
	論 文	1. 体操競技における〈両足旋回〉の指導事例に関する発生運動学的考察（共著）(2016)
	その他	1. 学校事故防止対策連絡協議会(北海道教育委員会)にて調査及び報告書を作成(2000)

フリガナ		カワモト　ヨウイチ
氏　　名		河本　洋一
学 位 等		北海道教育大学大学院教育学研究科修了　教育学修士（2000/03）
担当科目		1. 音楽科教育法Ⅲ
業績	著 書	1. 実践　保育内容シリーズ５『音楽表現』谷田貝公昭監修、三森桂子・小畠エマ編著、一藝社　第９章「他領域との関係」執筆（2014）
	論 文	1. 日本語歌唱を語る観点についての一考察～母音の感覚の検討を通して～ Consideration concerning the viewpoint which talks Japanese song-Through the examination of feeling of vowel（査読付）（単著）（2007） 2. 音楽表現の新たな素材としての模倣音の探求～非言語音による直接的模倣音のための発音器官の使い方～ A study of imitated sound as new material for musical expression:Vocal techniques for the direct imitation of non-verbal sounds（査読付）（単著）（2009） 3. オノマトペを用いた歌唱指導の意義に関する一考察 A study of significance of the vocal training that uses onomatopoeic words（単著）（2011） 4. ヒューマンビートボックスの可能性に関する一考察～ビートボクサーへの聞き取り調査とワークショップを通して～ A report of potential of "HumanBeatBox"（単著）（2012）
	その他	1. LC アルモーニカ制作　ニューイヤーコンサート大塚博章氏を迎えて（岩見沢）指揮（2011） 2. G.プッチーニ作曲　三部作　副指揮　LC アルモーニカ制作（2010） 3. トロンボーンアンサンブル「ポザウネンコワイア」演奏（帯広）（2010） 4. G.Verdi 作曲　歌劇『Don Carlo』　副指揮　LC アルモーニカ制作（2010） 5. W.Ferrari 作曲　歌劇『Il Campiello』　副指揮　LC アルモーニカ制作（2011） 6. ミュージカル『ウエストサイド・ストーリー』芸術監督兼指揮札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科ミュージカル公演（2012）

	その他	7. ワークショップ『ヒューマンビートボックスのトッププレーヤーとセッションしよう！』: 日本音楽表現学会第 9 回 Blue Valley 大会　山梨大学　（2012） 8. E.フンパーディンク作曲　歌劇『ヘンゼルとグレーテル』指揮　LC アルモーニカ制作（2012） 9. 岩見沢少年少女合唱団主催　LC アルモーニカ制作　歌劇『ヘンゼルとグレーテル』指揮　岩見沢市民会館まなみーる（2013） 10. 音楽舞踊劇『ヘンゼルとグレーテル』芸術監督兼指揮　札幌国際大学短期大学部公演（2013） 11. 研究発表『日本におけるヒューマンビートボックスの変遷について～JAPAN BEATBOX　CHAMPIONSHIP を振り返りながら～』日本音楽表現学会第 10 回　イーハトーヴ大会　盛岡市民文化ホール（2013） 12. 岩見沢少年少女合唱団主催　LC アルモーニカ制作　歌劇『夕鶴』指揮　岩見沢市民会館まなみーる（2015） 13. 美唄サテライト・キャンパス協働事業　音楽交流によるまちづくり企画・制作（ミュージックキャンプ、ふれあいコンサート）（2014、2015） 14. デモンストレーション『教育現場におけるヒューマンビートボックスの可能性について』日本音楽表現学会第 13 回（美ら島）大会　沖縄県立芸術大学（2015） 15. ワークショップ『コトバから Let's ヒューマンビートボックス』日本音楽表現学会第 14 回（メム）大会　拓殖大学北海道短期大学（2016）

フリガナ		キタムラ　キヨヒコ
氏　　名		北村　清彦
学 位 等		1. 京都大学文学部　文学士（1979/03） 2. 京都大学大学院文学研究科　文学修士（1981/03） 3. 京都大学大学院文学研究科　論文博士（文学）（2000/01）
担当科目		1. 美学
業績	著 書	1.『藝術解釈学－ポール・リクールの主題による変奏』（単著）（2003） 2.『岩波講座哲学０７　芸術／創造性の編著』（共著）（2008） 3.『北方を旅する-人文学でめぐる九日間』（編著）（2010） 4.『日常性の環境美学』（共著）（2012） 5.『北大　教養教育のすべて－エクセレンスの共有を目指して』（共著）（2016）
	論 文	1.「記憶を持つ物質としての芸術作品」（単著）（2005） 2.「方法論的概念としての「北方的なるもの」－芸術に実現されたものの検証を通して－」（単著）（2007） 3.「地域と連携した芸術科目の展開－北海道立近代美術館に学ぶ－」（単著）（2007） 4.「ヨネ・ノグチから野口米次郎－「文化的二重国籍性」の破綻としての「国家主義」」（単著）（2008） 5.「「環境」と「芸術」」（単著）（2008） 6.‘Aesthetics of Cultural Double Citizenship－A Case of A Japanese Poet、 Yone NOGUCHI－’（単著）(2009)
	その他	1.「森林と芸術の間に共通接線を引く」（単著）（2014） 2.「「Sapporo Conception」展に寄せて」（単著）（2014） 3.「アートとしての防風林／防風林を場としたアート」（単著）（2014） 4.「札幌国際芸術祭 2014 を見て　下」（単著）（2014） 5.「(北の文化) 大学の美術作品を掘り起こす　貴重な文化財伝える責務」（単著）（2014）

フリガナ		キタムラ　マサアキ
氏　　名		北村　優明
学 位 等		1. 日本体育大学　体育学士(1973/3)
担当科目		1. 生涯スポーツ（バドミントン）
業績	著 書	1.「体力・健康と運動科学」(共著)(1995) 2. 北海道女子短期大学生涯学習叢書「生涯学習の探求」(共著)(1999) 3.「わが国における競技者育成の現状と課題」、北翔大学生涯スポ-ツ研究センター叢書：『北方圏における生涯スポ-ツ社会の構築』(共著)(2009) 4.「バドミントンにおける競技者育成」北翔大学生涯スポ-ツ研究センター叢書：『北方圏における生涯スポ-ツ社会の構築』(共著)(2009) 5.「競技者育成システムの構築の展望」北翔大学生涯スポ-ツ研究センター叢書：『北方圏における生涯スポ-ツ社会の構築』(共著)(2009)
	論 文	1. バドミントン選手の運動能力に関する研究－その１平衡機能の検討－(共著)(1976) 2. 体育系女子学生の生活感情の研究(1)－入学初期の実態と変化－(共著)(1983) 3. 日本・韓国・中国の強化体制による各国のダブルスの戦型の特徴について－第 13 回日・韓・中ジュニア交流競技北海道大会から－（共著)(2008) 4. 北海道中学生バドミントン強化選手の体力の発達競技成績における関連性の検討(共著)(2012)
	その他	1. バドミントンにおける日本・韓国・中国のジュニア選手の戦術・得点パターンの比較分析(共著)(2006) 2. 世界男子団体バドミントン選手権大会における上位国の戦術・得点パターンの比較分析(共著)(2007). 3. 北海道及びジュニアナショナルバドミントン選手における運動能力の比較検討(共著)(2012)

フリガナ		キン　マコト
氏　　名		金　誠
学 位 等		1.神戸大学　博士(学術)
担当科目		1. スポーツ史
業績	著 書	1.『スポーツ人類学』 明和出版 （共著）(2004 年 9 月)
	論 文	1.「植民地朝鮮における野球大会創出の意味　－全国中等学校野球大会に着目して－」流通科学大学論集　－人間・社会・自然編　第 14 巻第 2 号（2001 年 11 月） 2.「朝鮮神宮競技大会の創設に関する考察　－その経緯を中心として－」スポーツ史研究第 16 号（単著）(2003 年 4 月) 3.「植民地近代」とスポーツに関する一試論　札幌大学総合論叢第 27 号（単著）(2009 年 3 月) 4.「植民地朝鮮における皇国臣民体操の考察」　札幌大学総合論叢 第 28 号（単著）(2009 年 10 月) 5.「植民地朝鮮における普成専門学校のスポーツ活動に関する考察」札幌大学総合論叢第 30 号（単著）(2010 年 10 月) 6.「朝鮮半島における植民地主義とスポーツに関する研究」神戸大学大学院国際協力研究科博士学位論文（2012 年 12 月） 7.「植民地朝鮮における朝鮮神宮競技大会に関する研究」スポーツ史研究第 26 号（単著）(2013 年 3 月) 8.「植民地朝鮮における近代性と民族の「身体」―スポーツによる民族的劣等感の払拭―」植民地教育史研究年報第 17 号（単著）(2015 年 3 月)
	その他	1.「日本の植民地主義がスポーツ文化に及ぼした影響－1920 年代の植民地朝鮮に着目して－」〈財団法人〉水野スポーツ振興会 2001 年度研究助成金研究成果報告書(2002 年 3 月) 2.「李承晩とサッカー日韓戦」スポーツ史学会会報ひすぽ No. 58、(2004 年) 3.「日本植民地下朝鮮における学校体育政策」を読んで　日本教育史研究第 24 号（2005 年） 4.「ＳＡＭＵＲＡＩ　ＢＬＵＥ―「サムライ」「なでしこ」と呼ばれる日本代表選手たち―」スポーツジャスト 2006 年 9 月号、(2006 年) 5.「アジアは宝の山―アメリカ・メジャースポーツのマーケット

		拡大」スポーツジャスト 2007 年 12 月号（2007 年） 6. 「朝鮮半島における植民地近代とスポーツに関する史的考察」科学研究費補助金若手研究〈スタートアップ〉（2007 年 10 月～2009 年 3 月） 7.「鄭大世の涙―祝祭空間にみる「物語」としての身体」スポーツ史学会会報ひすぽ No. 77（2010 年） 8. 「植民地朝鮮における対日協力とスポーツに関する研究」科学研究費補助金若手研究Ｂ（2012 年 4 月～2016 年 3 月） 9.「朝鮮半島における解放前後（1940 年代）のスポーツ活動に関する研究」日韓文化交流基金訪韓フェローシップ（2014 年 9 月～2015 年 2 月）

フリガナ		クドウ　ノリオ
氏　　名		工藤　憲
学 位 等		北海道教育大学旭川校保健体育科卒業　学士（教育学）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（バレーボール）　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1.「共汗・共涙・共生」（単著）（2011）星雲社 2.「バレーボール　スキルアップドリル」（単著）（2014） 日本文化出版
	論 文	1. スポーツ系大学生に対するバレーボール技術分析および効果的指導法の提案について－バレーボール統計分析ソフト Data Volley・Data Video を活用して－（共著）（2016）
	その他	バレーボール専門誌（「月刊バレーボール」、「コーチング＆プレイングバレーボール」）に指導法を連載中

フリガナ		コジマ　チヒロ
氏　　名		小島　千裕
学 位 等		1. 北海道教育大学　教育学学士（2007/03） 2. 北海道教育大学大学院教育学研究科　教育学修士（2010/03）
担当科目		1. 教育原理（幼・小）
業績	著 書	
	論 文	1.「教育関係者のことばの認識と「国語」形成―明治 30 年代の『岩手学事彙報』にもとづいて―」（単著）（2015） 全国大学国語教育学会 『国語科教育』 第七十七集　pp.38-45. 2.「小学校教育における方言矯正をめぐる状況―明治 30 年代の岩手県を対象として―」（単著）（2016） 『北海道大学大学院教育学研究院紀要』　第 126 号　pp.19-41.
	その他	1.「明治 30 年代の教育雑誌における地域のことばにまつわる記述の検討―東北地方を対象として―」（単著）（2016） 全国大学国語教育学会　『国語科教育研究』（第 131 回東京大会研究発表要旨集）　pp.357-360.

フリガナ		コヤ　リョウコ
氏　　名		小屋　亮子
学 位 等		1. 独立行政法人大学評価学位授与機構　芸術工学学士（2009） 2. 札幌市立大学大学院デザイン研究科　デザイン学修士（2013）
担当科目		1. 色彩計画
業績	著 書	
	論 文	1.「札幌の都市景観色の現状調査と札幌の景観イメージ向上への提案」（2013）（札幌市立大学大学院デザイン研究科修士論文）
	その他	1. 創作市場別冊「ラッピングアート」（マリア書房）ラッピング作品掲載（2005） 2. 第１回ラッピングデザインコンペティション（ＮＰＯ法人ジャパンラッピングクラブ主催）入選（2007） 3. 第２回ラッピングデザインコンペティション（ＮＰＯ法人ジャパンラッピングクラブ主催）入選（2008） 4. 札幌昭和会（塗装業界の団体）いい色@委員会フォーラムにて、「札幌景観７０色を使った集合住宅の塗り替えイメージ調査」についてパネル発表（2008） 5. 「追憶」など２作品（コラージュ）を出展、「百まい襖展」（百まい襖展実行委員会主催（2012） 6. 「追憶Ⅱ」など２作品（コラージュ）を出展、「百まい襖展」（百まい襖展実行委員会主催）（2014） 7.「4season」など２作品（切り絵）を出展、「枠わくアート展」（NPOゆう主催）（2015）

【別紙様式】

フリガナ		コヤマ　ヒロアキ
氏　　名		小山　尋明
学 位 等		1. 天理大学　体育学部体育学科武道コース　体育学士
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（武道）
業績	著 書	
	論 文	1. 道都大学生の体力・運動能力調査（共著）（2008） 道都大学紀要　共通教育部第２号
	その他	

フリガナ		コンドウ　ケンイチロウ
氏　　名		近藤　健一郎
学 位 等		博士（教育学）
担当科目		1. 教育原理
業績	著 書	1. 近藤健一郎『近代沖縄における教育と国民統合』北海道大学出版会（単著）（2006） 2. 近藤健一郎編『方言札』社会評論社（編著）（2008） 3. 姉崎洋一・大野栄三・近藤健一郎編『教職への道しるべ』八千代出版（共編著）（2010）
	論 文	1. 「1930年代中葉の沖縄における標準語教育・励行政策とその実態」、『ことばと社会』第13号、三元社（単著）（2011） 2. 「アジア太平洋戦争下における府県教育会機関誌の『休刊』と敗戦直後におけるその『復刊』」、全国地方教育史学会『地方教育史研究』第33号（単著）（2012） 3. 「旧慣期の沖縄県における初等教育制度の特徴―第二次小学校令期（1890～1900年）を中心に」、沖縄文化協会『沖縄文化』第48巻第1号（単著）（2014）
	その他	1. 「書評　小林茂子著『「国民国家」日本と移民の軌跡　沖縄・フィリピン移民教育史』、日本教育学会『教育学研究』第78巻第1号（単著）（2011） 2. 「北海道大学出身初任教員の直面している困難から模索する教職課程改善の方途（３）」、『北海道大学教職課程年報』第3号（単著）（2013） 3. 「教職必修科目『教職実践演習』の取り組みをふりかえって」、『北海道大学教職課程年報』第4号（共著）（2014）

フリガナ		コンドウ　ユウイチロウ
氏　　名		近藤　雄一郎
学 位 等		1. 北海道浅井学園大学　学士（生涯教育学）（2006/03） 2. 北海道大学大学院教育学研究科　修士（教育学）（2008/03） 3. 北海道大学大学院教育学院　博士（教育学）（2012/03）
担当科目		1. 体育原理　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1. アルペンスキー競技における技術戦術指導―初級者及び中級者を対象とした実証的研究―（単著）（2013）
	論 文	1. アルペンスキー競技における初心者を対象とした教授プログラム（単著）（2008） 2. アルペンスキー競技における運動モルフォロギー的分析（共著）（2008） 3. アルペンスキー競技大回転種目における技術・戦術構造について（単著）（2011） 4. アルペンスキー競技大回転種目における技術･戦術の質的発展構造について（共著）（2012） 5. アルペンスキー競技回転種目におけるタイム分析とストック・ワークのタイミング分析（共著）（2012） 6. 学校体育におけるサッカーの指導の教育内容と教材の変遷に関する一考察（共著）（2015） 7. 教員養成課程大学における保健体育科教育法の指導について（共著）（2016）
	その他	1. 私たちの授業研究「北海道大学教育学部・大学院教育学院体育方法研究グループの研究方法」（共著）（2008） 2. 第 20 回冬季スポーツ科学フォーラム　垣根を越えた情報共有前編（共著）（2009） 3. 第 20 回冬季スポーツ科学フォーラム　垣根を越えた情報共有後編（共著）（2009）

フリガナ		ササキ　ミユキ
氏　　名		笹木　美幸
学 位 等		修士（教育学）
担当科目		1. 肢体不自由者の心理・生理・病理
業績	著 書	
	論 文	
	その他	1. 事例発表　第29回感覚統合学会「感覚調整障害における早期介入の事例報告」～赤ちゃんサロンの実践から～（2011） 2. 事例発表　北海道作業療法学会「自閉症スペクトラム障害の感覚調整に着目した早期介入の一例」（2012） 3. 研究発表　第30回感覚統合学会研究大会「乳幼児期における歩行獲得までの運動の発達変異と感覚調整」（2012） 4. 事例発表　第32回日本感覚統合学会研究大会「感覚面からの介入が離乳食のすすめ方に影響した事例」～赤ちゃんサロンの経験から～（2014） 5. 研究発表　日本赤ちゃん学会「運動発達遅滞と感覚偏倚を持つ乳幼児の特徴と社会性の発達の傾向」（2015） 6. 研究発表　第50回日本作業療法士学会「乳幼児期における感覚調整障害と社会性の発達との関連性について」（2016）

フリガナ		サトウ　エツコ
氏　　名		佐藤　悦子
学 位 等		
担当科目		1. 野外教育実習　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	
	論 文	1. 青木康太朗，粥川道子，安原政志，佐藤悦子：雪を使った外遊びプログラム「スノーゲーム」の開発，北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報第 6 号，pp. 73-78，（共著）（2015）
	その他	1. 北海道認定山岳ガイド（夏山）（2006 年～現在に至る） 2. 就労継続支援Ｂ型事業所でのスポーツ支援（ウォーキング、筋力トレーニング、水泳等）（2011 年～現在に至る） 3. 正看護師

フリガナ		サトウ　リョウヘイ
氏　　名		佐藤　亮平
学 位 等		1. 北翔大学　生涯学習システム学部　健康プランニング学科 生涯学習学学士（2010/03） 2. 北翔大学大学院生涯学習学研究科　生涯学習学修士（2012/03）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（サッカー）
業績	著 書	
	論 文	1. サッカーの戦術の発展と現代サッカーの戦術（共著）（2011） 2. サッカーの技術・戦術構造に関する考察（共著）（2011） 3. 学校体育におけるサッカーの指導の教育内容と教材の変遷に関する一考察（共著）（2015） 4. サッカーの戦法とシステムの歴史的発展に関する再考察（単著）（2015） 5. 教員養成課程大学における保健体育科教育法の指導について（共著）（2016）
	その他	

フリガナ		シゲナリ　トシフミ
氏　　名		重成　敏史
学 位 等		1. 順天堂大学体育学部体育学科　体育学士（1978/03）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（陸上競技）　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	
	論 文	1. 日本学生一流女子走幅跳競技者における競技記録および各種垂直跳パフォーマンスの変化 - 大学 3 年生から 4 年生まで - 北方圏生涯スポーツ研究センター年報　第 5 号，15-26 大宮真一，中村宏之，北風沙織，重成敏史，伊丸岡亮太，吉田真，吉田昌弘，（2014）
	その他	○指導歴 1. 北海道恵庭南高等学校（1991～2012） 全国高校総体　砲丸投、円盤投、七種競技　延べ 4 回優勝 全国高校駅伝　5 回出場 2. 北翔大学陸上競技部コーチ（2012～2013） 3. 北翔大学陸上競技部監督（2014～現在に至る） 全国大学女子駅伝大会 4 回出場

フリガナ		シバ　ツトム
氏　　名		柴　勤
学 位 等		北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻修了　文学修士 （1983/03）
担当科目		1. 美術史　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1. 蛯子善悦画集　（共著）（2005） 2. 深井克美－未完のランナー　（単著）（2006） 3. 北海道美術あらかると　（共著）（2008）
	論 文	1. 藤田が生きた時代　（共著）（2008） 2. パスキンと日本　（共著）（2010） 3. モンパルナスの芸術家村　（共著）（2010） 4. 小川原脩の世界　（共著）（2014） 5. 異邦人のパリ　（共著）（2015）
	その他	1. 札幌時計台ギャラリー「ACT21」展覧会評（2014～2016） 2. 木田金次郎美術館（岩内町）講演会講師（2015） 3. 新見美術館（岡山県）講演会講師（2015） 4. UHB 大学(札幌市)講師（2015） 5. さっぽろ市民カレッジ（札幌市生涯学習センター）講師（2016）

フリガナ		シブヤ　トシヒコ
氏　　名		澁谷　俊彦
学 位 等		1. 武蔵野美術短期大学卒業（1983） 2. 同専攻科修了（1984）
担当科目		1. グラフィックデザインⅠ 2. グラフィックデザインⅡ
業績	著 書	1.The Lecture Report of Sapporo Art Labo (SALA)2010.4-2012.3 サッポロアートラボ「サラ」（2012） 2.第3回柴橋伴夫「安田侃と大理石文化」 －柴橋伴夫が考察する安田芸術の鼓動と宇宙観－（単著） 3.第10回若菜彩人「表現とテクノロジー、現実の拡張形」 －拡張現実とアートの関わり、現状認識とその未来形の模索－（単著）
	論 文	1. 絵画の境界線をめぐるインスタレーションの新展開」（単著）（2008）北海道芸術論評第1号　北海道芸術学会学会誌
	その他	1.「札幌文化奨励賞」受賞（2014）

フリガナ		スガワラ　カツヒロ
氏　　名		菅原　克弘
学 位 等		北海道教育大学札幌分校　教育学学士
担当科目		1. 作曲法　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	
	論 文	1. 独奏曲における、楽器の特性を生かした編曲に関する研究 －カルメン・ファンタジーを題材に－（単著）（2008） 2. 吹奏楽における演奏効果が高く、演奏技術は平易な編曲方法に関する研究①－小学校における全校合奏用編曲の場合－ （単著）（2008） 3. 吹奏楽における表現活動の多様性に関する研究（2） ―フルート四重奏曲の作曲を通して―（共著）（2014）
	その他	1. 江別市「聚楽学園歌」の吹奏楽編曲及び初演指揮（2012） 2. 福島県「南相馬市立大甕小学校校歌」の吹奏楽編曲及び初演指揮（2012） 3.「江別市立大麻西小学校校歌」の吹奏楽編曲及び初演指揮（2012） 4. サクソフォン８重奏用編曲作品「リュートのための古風な舞曲とアリア第三組曲」（O.レスピーギ）出版＜ティーダ出版＞（2016）

フリガナ		スズキ　フジオ
氏　　名		鈴木　富士雄
学 位 等		北海道教育大学　教育学士（1970/3）
担当科目		1. 教育課程論
業績	著 書	
	論 文	1. ティーチャーズセンターとしての指導力を高める　Faculty Developmentと教師教育のPDCA（共著）　北海道教育大学　教職大学院　研究紀要　創刊号（2011） 2. 思考力・判断力・表現力の育成を目指した算数教育（共著）　北海道教育大学研究紀要　第64巻（2013） 3. 「かく力を育てる」～論理的に考え、説明する力の育成を目指して～（単著）　新しい算数研究　東洋館出版（2013）
	その他	

フリガナ		タカヤシキ　キョウコ
氏　　名		髙屋敷　亨子
学 位 等		
担当科目		1. 生涯スポーツ（水泳・水中運動）
業績	著 書	
	論 文	1. 北翔大学水泳授業におけるスポーツ専攻学生の水泳能力と指導法（共著）（2016）
	その他	教育指導歴 1. 江別市主催「水中運動教室」講師（2003 年～現在） 2. NPO 北海道水中運動協会主催「水中運動指導員」養成講習会講師（2004 年～現在） 3. NPO 北海道水中運動協会の依頼で安平町、利尻富士町、天塩町での水中運動教室、着衣泳教室講師（2010～現在）

フリガナ		ツチヤ　リツコ
氏　　名		土屋　律子
学 位 等		1. 北海道大学大学院教育学研究科　修士（教育学）（2007/09）
担当科目		1. 栄養学（食品学を含む）
業績	著 書	1. 北方圏における生涯スポーツ社会の構築（共著）（2010/03）
	論 文	1. 運動習慣のある本学学生に対する食育基礎調査（共著）（2007/03） 2. 運動習慣のある本学学生に対する食育基礎調査（共著）（2008/03） 3. 北海道における米の摂取状況と調理状況について（共著）（2008/10） 4. 北海道における米摂取の現状と利用者意識（共著）（2010/03）
	その他	1.「北海道における米の摂取・調理状況と米に対する意識調査」報告書（共著）（2009/12）

フリガナ		ナカニシ　ケンイチロウ
氏　　名		中西　健一郎
学 位 等		1. 島根大学　教育学士（1996/03） 2. 筑波大学大学院体育研究科　体育学修士（2000/03）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（サッカー）
業績	著 書	1. 小澤ティーチャーが語るからだの寺子屋　第33回「スポーツライフマネジメント(3)～プロサッカー選手のコンディショニング」（共著）（2011）
	論 文	1. 戦術学習を用いたサッカーの授業展開 －守備学習を用いた授業の検討（共著）（2010） 2. デンマークにおけるU-12 年代のサッカー環境（共著）（2012） 3. 逐次的単元構成法による授業の実践的研究 －保健体育・サッカー授業での活用から－（単著）（2012） 4. 寒冷地域における青少年サッカー振興に関する国際比較についての基礎的研究- 札幌地区とデンマークの比較検討 -」（共著）（2014）
	その他	1. 高校サッカーにおける国際交流～オランダ遠征を通じて」（共著）（2013）

フリガナ		ナカムラ　メグミ
氏　　名		中村　恵
学 位 等		準学士
担当科目		1. 生涯スポーツ（水泳・水中運動）
業績	著 書	
	論 文	1. 北翔大学水泳授業におけるスポーツ専攻学生の水泳能力と指導法（共著）（2016）
	その他	教育指導歴 1. 札幌光陽中学校臨時教員（保健体育）（1991） 2. 江別フリッパー水泳サークル臨時講師（1991） 3. 北海道水泳連盟泳力検定試験検定員（1991-2003） 4. 日本赤十字社水上安全法救助員養成講習会助手（1998-2002） 5. 江別水泳協会夏休み水泳教室講師（2009-2012） 6. 江別市立東野幌小、野幌小の水泳授業講師（2011-2012）

フリガナ		ナカヤマ　アキラ
氏　　名		中山　章
学 位 等		1. 東日本学園大学　薬学士(1992/03) 2. 東日本学園大学大学院薬学研究科　薬学修士(1994/03) 3. 北海道医療大学大学院薬学研究科　薬学博士(2001/03)
担当科目		1. 薬理概論
業績	著 書	1. 図説　血栓・止血・血管学～血栓症制圧のために～ 中外医学社(共著)(2005)
	論 文	1. 学校保健室備え付け医薬品に関する調査　～札幌市内小学校におけるアンケート調査から～　札幌学校薬剤師会雑誌 Vol.48,42-47,（単著）(2013) 2. 札幌市立小・中・高等学校における健康教育に関するアンケート調査　札幌学校薬剤師会雑誌　Vol.49,42-47,（単著）(2014) 3. アクティブラーニングにおける学習効果の視覚化と教育改善への取り組み ICT 活用教育方法研究　Vol.17,37-42（共著）(2014)
	その他	

フリガナ		ニシダ　ヨウジ
氏　　名		西田　陽二
学 位 等		
担当科目		1．絵画Ⅱ
業績	著 書	1．手を描く（技法講座）（「美術の窓」No.310）（2009） 2．アクリル技法（「一枚の繪」No.499）（2013）
	論 文	
	その他	1．個展 (1)西田陽二個展　札幌三越美術画廊（2006） (2)西田陽二個展　札幌三越美術画廊（2009） (3)西田陽二個展　銀座ギャラリー一枚の繪（2009） (3)西田陽二個展　札幌ギャラリーレタラ（2011） (4)西田陽二個展　銀座光画廊（2012） (5)西田陽二個展　日本橋三越美術画廊（2014） 2．公募展 (1)北海道美術協会（道展）　札幌市民ギャラリー（1973～現在） (2)一般社団法人　光風会　国立新美術館（1982～現在） (3)公益法人　日展　国立新美術館（1998～現在） 3．グループ展 (1)「具象の新世紀展」　北海道立近代美術館・他（2002～2006） (2)光風会「爽光会」　日本橋三越美術画廊（2003～2005） (3)「北海道現代具象展」　北海道立近代美術館・他（2007～2016） (4)sapporo is white　札幌芸術の森美術館（2008） (5)光風会「光耀展」　日本橋三越美術画廊（2009～2011） (6)ベストセレクション展　東京都美術館（2013） 4．受賞歴等 1977　道展/協会賞受賞（’78 会友推挙,’82 会友賞受賞,’83 会員推挙　） 1988　光風会展・奨励賞受賞（’94 奨励賞受賞、’97 会友賞受賞、’98 会員推挙、’04 会員賞受賞,’06 田村一男記念賞受賞、’07 損保ジャパン美術財団奨励賞受賞,） 1992　第２回　荒井記念美術館大賞展・大賞受賞 2008　第27回　損保ジャパン美術財団選抜奨励展　秀作賞受賞 2010　北海道文化奨励賞 2011　日展特選受賞 2014　光風会展文部科学大臣賞受賞　・札幌芸術賞受賞 2016　日展特選受賞　喜茂別町教育功労表彰

フリガナ		ハセガワ　ユキ
氏　　名		長谷川　由樹
学位等		札幌学院大学　人文学士（2011/03）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（ダンス）
業績	著書	1.「平成25年度実践例　表現・ダンス資料集」『ヒップホップのリズムで踊るグループ創作ダンス』pp1-19, 長谷川由樹・吉田摩里子，北海道女子体育連盟，（2014）
	論文	1. 交流を主体とした「現代的なリズムのダンス」の学習モデルについて（共著）（2016）
	その他	1. 札幌市スポーツ財団　出張授業講師　札幌市立北陽中学校（2013） 2. 北海道女子体育連盟主催　表現運動・ダンス講習会　講師（2014） 3. 札幌市　文科系部活動等スポーツ大会 in 北区　講師（2015） 4. A-bank 北海道　派遣事業講師　市立札幌開成中等教育学校（2015）

フリガナ		ハタエ　イクコ
氏　　名		畑江　郁子
学 位 等		1. 北海学園大学　文学学士　（2002/3） 2. 札幌医科大学大学院保健医療学研究科　看護学修士（2005/3）
担当科目		1. 看護学各論
業績	著 書	
	論 文	1.「小児がん治療を終了した青年の病気体験」『日本小児がん看護』，第 8 号　p .27～36.（単著）（2013） 2.「父親の育児参加を促すＮＩＣＵスタッフの取り組み実態」『北海道医療大学看護福祉学部学会誌』第 10 巻，p .23～28.（共著）（2014） 3.「重症心身障害児施設に勤務する看護師の研修の実態—第 1 報　受講の有無と未受講のニーズ—」『北海道医療大学看護福祉学部学会誌』第 11 巻，p .11～17.（共著）（2015） 4.「がんの子どもの復学に関する北海道の高校教員の意識—看護師との連携について—『北翔大学北方圏学術情報センター年報』第 7 号，p.91～96.（共著）（2015） 5.「看護学科における模擬患者参加型授業と OSCE の実施・評価（その 2）—演習の運営—」『北海道医療大学看護福祉学部学会誌』第 12 巻，p .79～85.（共著）（2016） 6.「高等学校に勤務する養護教諭と一般教諭の小児がんに関する認識とがん体験者との関わり」『小児保健研究』第 75 号．p 504～510.（共著）（2016） 7.「小児がん体験者の退院後の生活と看護支援に関する文献検討」『北海道医療大学看護福祉学部学会誌』第 13 巻，p .43～48.（共著）（2017）（印刷中）
	その他	1.「小児がん治療を終了した青年の病気体験」第 3 回小児がん看護研究会論文集，p .546.（単著）（2005） 2.「食物アレルギーの幼児が安全な食生活を送るための母親の行動」日本小児看護学会第 26 回学術集会講演集，p .101.（共著）（2016）

フリガナ		ハタケヤマ　アヤコ
氏　　名		畠山　綾子
学 位 等		準学士
担当科目		1. 生涯スポーツ（水泳・水中運動）
業績	著 書	
	論 文	
	その他	1. スポーツクラブおよびスイミングクラブにて水泳指導（1983～1999） 2. 短期大学非常勤講師（浅井学園大学短期大学部、北翔大学短期大学部）（2003～2012）

フリガナ		ハナワ　ダイスケ
氏　　名		花輪　大輔
学 位 等		1. 北海道教育大学　教育学士（1997/03） 2. 北海道教育大学大学院 教育学研究科 教育学修士（2006/03）
担当科目		1. 美術科教育法Ⅰ 2. 美術科教育法Ⅱ
業績	著 書	1. 「全国の美術の授業」日本文教出版：しりとりアニメーション（共著）（2006） 2. 「解析台湾・日本　美術教育與児童画」風和文化藝術有限公司（共著）（2010） 3. 「美術学習指導書２・３」開隆堂出版：学校のCMをデザインしよう～映像メディアを活用した表現～（単著）（2012） 4. 「図画工作・基礎造形」建帛社（共著）（2016） 5. 「アートエデュケーション思考」（共著）（2016）
	論 文	1. 小学校・中学校の造形教育におけるメディア表現の実践研究：北海道教育大学釧路校研究紀要（共著）（2007） 2. 中学校における鑑賞教育のカリキュラム開発に関する一考察：北海道教育大学釧路校研究紀要（単著）（2009） 3. 美術を愛好し、主体的に世界観をひろげていく生徒の育成～価値創造的な鑑賞の授業実践を通して～：教育美術佐武賞佳賞（単著）（2010） 4. The agenda for lower secondly level art education.：From a viewpoint of subject management：査読論文：大学美術教育学会（単著）（2013） 5. 現代における小中学生の絵画表現の発達 段階の検討Ⅰ-1983年実施の「絵画表現能力調査」結果との比較から-：査読論文：大学美術教育学会（単著）（2014） 6. The wood craft in Art Education using Ainu pattern by Junior high school students：査読論文：日本基礎造形学会（共著）（2014） 7. 石狩管内の「授業における ICT 活用」に関する実態調査報告 -石狩教育研修センター・北海道立教育研究所との連携事業-：北海道教育大学紀要（単著）（2014） 8. A Consideration on Teaching-materials development of a low melting point alloy (For practice of the metal casting in the art education of the Elementary and Junior High Schools)：査読論文：日本基礎造形学会（単著）（2015） 9. A Study on Task-Values of Art Education in Lower Secondary Level Ⅰ —From Comparison with the Investigation Result in MURASE(1983)—：査読論文：大学美術教育学会(単著)(2015) 10. 現代における小中学生の絵画表現の発達段階の検討 II -1983

		年実施の「絵画表現能力調査」結果との比較から-：実践美術教育学会（単著）（2015） 11. A Report of the “Visual Media” Practical Use Situation in the South Korean Lower Secondly Level Art Education：北海道教育大学紀要（共著）（2015）
	その他	1. 月刊教育美術：アニメーション作品による価値創造的な鑑賞授業の可能性（単著）（2010） 2. 「なりきりアーティスト」北海道造形教育連盟『造形新時代実践事例集』（共著）（2011） 3. 「適時性」と「連続性」を踏まえた異校種間の連携・接続の在り方：北海道教育大学附属学校共同研究会（共著）（2011） 4. 月刊教育美術：今日的な学習指導案の在り方を考える（単著）（2012） 5. 「北海道教育大学札幌校における小学校教員養成主免実習の事前・事後指導に関する報告」日本教育大学協会全国教育実習研究部門『教育実習研究』第28集（共著）（2015） 6. 「As interface to philosophy」：第90回記念北海道美術協会展：彫刻部門：入選（2015） 7. 「The place where independence begins」第91回北海道美術協会展：彫刻部門：入選（2016）

フリガナ		フクダ　シンイチ
氏　　名		福田　信一
学 位 等		1. 北海道教育大学札幌分校卒業　教育学士（1975/03）
担当科目		1. 道徳教育研究特論 2. 道徳教育論（小）
業績	著 書	1. 場面把握力を磨く文学文の指導（共著）（2006） 2. これだけは身につけたい国語科基本用語（共著）（2007） 3. 1時間で国語力を育てる授業プラン（共著）（2008） 4. PISA 型読解力が向上する国語科授業の改革（共著）（2009） 5. 活用型国語学力の定着をめざす「話すスキル」習得ステップワーク（共著）（2011） 6. 日常の授業で取り組む学力向上（共著）（2016）
	論 文	1. 学校における発達支援のあり方（共著）（2005） 2. 教室での身体的コミュニケーションからとらえる学び（共著）（2011）
	その他	1. 道徳教育の充実について（単著）（2013） 2. 道徳教育の充実（単著）（2015） 3. これからの教育をとらえる視点（単著）（2015） 4. 道徳　特別の教科化の必要性（単著）（2015）

フリガナ		フジモト　カズヒコ
氏　　名		藤本　和彦
学 位 等		北海道教育大学札幌分校 教育学士（1988／03）
担当科目		1. 彫刻Ⅲ　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著 書	1. アルテポルト・ミニトークの記録（共著）（2012） 2. 市民雪像制作ガイド（共著）（2013）
	論 文	
	その他	作品発表（タイトル、展覧会名、発表場所） 1.「かはたれ時-森-」”North to North” Plus 1 in Vietnam／ベトナム・ハノイ（2009/02） 2.「縁,向こう側,こちら側」 水脈の肖像 09／北海道立近代美術館／札幌（2009/12） 3.「ヨロシロ」Plus 1 This Place／本郷新記念札幌彫刻美術館／札幌（2010/09） 4.「ヨリシロ-洞窟のフォークロア-」個展／CAI 02 raum1／札幌（2010/12） 5.「The origin」／意識の形 Plus 1 meets DeaguP／Art space PURL／韓国,大邱(2012/04) 6.「現象界･滲」／Plus 1 間･IN BETWEEN／コンチネンタルギャラリー／札幌（2014/08） 7.「Worldly Desires」／光州･北海道交流展／国立博物館／韓国･光州広域市(2014/11)

フリガナ		ホソヤ　カズヒロ
氏　　名		細谷　一博
学 位 等		1. 上越教育大学　教育学修士(1998/03)
担当科目		1. 特別支援教育総論
業績	著 書	1. 学びの空間はこだて-地域を学ぶ，地域で学ぶ- 障害児臨床活動(共著)(2011) 2. 特別支援教育の授業づくり「社会とかかわる力」を育てる！6つの支援エッセンス(共著)(2013) 3. キーワードで読む発達障害研究と実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援－福祉・労働制度・脳科学的アプローチ－(共著)(2016)
	論 文	1. 小学校特別支援学級に在籍する児童の教科交流時における学習過程に関する実践記録(共著)(2011) 2. 知的障害児・者と高等学校バスケットボール部における交流及び共同学習に関する実践的研究(単著)(2011) 3. 北海道札幌市における知的障害者の就労支援の現状と就労状況(共著)(2011) 4. 北海道公立高等学校における特別支援教育の現状と課題(共著)(2012) 5. 交流及び共同学習における教師の付き添いが及ぼす知的障害児の発信内容の変化に関する実践的研究(共著)(2013) 6. 特別支援学校の学校間交流における相互理解の促進に向けた情報共有シートの開発に関する試行的実践(共著)(2013) 7. 交流及び共同学習における「小学生の学び」に関する質的研究(共著)(2013) 8. 特別支援教育支援員の現状と課題 －函館市内の支援員への調査を通して－(共著)(2014) 9. 盲学校に在籍する弱視を伴う自閉症幼児における集団活動の検討(共著)(2015) 10. 小学校特別支援学級に在籍する児童を対象とした教科交流の評価方法に関する試行的実践(共著)(2015) 11. 交流及び共同学習の現状と今後の展望－2004年以降の特別支援学級における交流及び共同学習に焦点を当てて－(共著)(2016) 12. 小学校と特別支援学校の学校間交流における障害理解促進を目指した事前学習授業の実践(共著)(2016)

		13. 知的障害児を対象とした交流及び共同学習における学習支援に関する文献的検討(共著)(2016) 14. 成人知的障害者の余暇生活における現状と課題(共著)(2016) 15. 学校間交流の実施における児童理解に焦点をあてた障害理解授業の開発(共著)(2016)
	その他	1. スペシャルオリンピックス日本・新潟の取り組み―各地域の紹介と組織運営―(共著)(2009) 2. 大学と附属特別支援学校における「早期幼児支援教室」の取組(共著)(2012) 3. 余暇の現状からみえる課題と学校教育でできる支援(単著)(2012)

フリガナ		ホンダ　マサヒロ
氏　　名		本田　真大
学 位 等		1. 筑波大学　学士（人間科学）（2004/03） 2. 筑波大学大学院人間総合科学研究科　修士（心理学）（2006/03） 3. 筑波大学大学院人間総合科学研究科　博士（心理学）（2009/03）
担当科目		1. こども理解
業績	著 書	1. ライブラリ　スタンダード心理学 6　スタンダード教育心理学 サイエンス社（共著）（2014） 2. 援助要請のカウンセリング―「助けて」と言えない子どもと親への援助―　金子書房（単著）（2015）
	論 文	1. 幼児をもつ母親の子育ての悩みに関する援助要請行動に影響を与える要因の検討　カウンセリング研究（共著筆頭）（2010） 2. 幼児期の子どもを育てる母親の抑うつの実態に関する研究の展望　心理臨床学研究（共著筆頭）（2014） 3. 附属幼稚園と連携した大学授業の展開―ソーシャルスキルを意識したおはなし会の実践報告―　北海道教育大学附属函館幼稚園平成 26 年度研究紀要（単著）（2015） 4. 幼児期，児童期，青年期の援助要請研究における発達的観点の展望と課題　北海道教育大学紀要（単著）（2015）
	その他	1.「助けて」と言わない教師，「助けて」が届かない学校―援助要請の心理学から見えること―　児童心理 2014 年 8 月号臨時増刊（単著）（2014） 2. 特別支援教育における教師とスクールカウンセラーとの協働指導と評価 2015 年 5 月号（単著）（2015） 3. 子育ての悩みを相談しない保護者へのアプローチ　子育て支援と心理臨床（単著）（2015）

フリガナ		マスヤ　タカオ
氏　　名		枡谷　隆男
学 位 等		1. 国立音楽大学　学士（芸術士）（1979）
担当科目		1. 音楽科教育法Ⅳ
業績	著 書	1. 高校生の音楽２　指導の手びき（共著）（2014） 2. ON！2　指導の手びき（共著）（2014） ［上記 1、2 の中の「伝統音楽－アイヌ音楽」を担当］
	論 文	1. 世界一寒冷な国、ロシア連邦サハ共和国との国際交流－春を呼ぶ楽器・ホムス演奏会の実践　北海道札幌拓北高等学校研究紀要第５号（単著）（2007） 2. 貝製、木製及び樹皮製の法螺貝の楽器学的考察－日本各地の呼称からみた音具の歴史　北海道高等学校教育研究会研究紀要第 45 号（単著）（2008） 3. 生涯学習につながる音楽鑑賞教育の実践と課題－「音楽」が伝えられることは何か　北海道高等学校教育研究会研究紀要第 51 号（単著）（2014）
	その他	1. リコーダーよもやま話 1～20　季刊リコーダー第 3～18 号（単著）（2012-2017） 2. 音楽授業でのリコーダーを考える 1～4　季刊リコーダー第 12～15 号（単著）（2014-2015）

【別紙様式】

フリガナ		ミズノ　クンペイ
氏　　名		水野　君平
学 位 等		1. 北海道大学　学士（教育学）（2014/03） 2. 北海道大学大学院教育学院　修士（教育学）（2016/03）
担当科目		1. 教育心理学
業績	著 書	1.「学校・家庭と自分に関する」小学生・中学生アンケート調査『札幌子ども・若者白書』, pp.248-67, 札幌子ども・若者白書をつくる会,（共著）（2016） 2. 道徳性の発達：コールバーグの段階再訪,『発達心理学再入門』, pp201-214, 新曜社（共著・翻訳）（2017）
	論 文	1. 中学生における「スクールカースト」とコミュニケーション・スキル及び学校適応感との関連, 子ども発達臨床研究, 7 号, 13-22,（共著）（2015） 2. いじめ被害の実態と教師への援助要請：通常学級と特別支援学級の双方に注目して　子ども発達臨床研究, *8*, 1-12.（共著）（2016） 3. 学校適応感とその予測要因に関する検討(１)ー「学校適応の負の側面」としてのスクールカースト, 北海道大学大学院教育学研究院紀要, *126*, 101-110,（単著）（2016） 4. 小学生のスクールカースト, グループの所属, 教師との接触といじめ被害の関連　心理科学（共著）（2017）
	その他	1.「学校・家庭と自分に関する」小学生・中学生アンケート調査報告書, 札幌子ども・若者白書をつくる会,（共著）（2017）

フリガナ		ミツイ　ノボル
氏　　名		三井　登
学 位 等		1. 北海道教育大学　教育学士（1993/03） 2. 北海道大学大学院教育学研究科　教育学修士（1996/03）
担当科目		1. 保育内容（健康）
業績	著 書	1. きょうの　きゅうしょくなにー？―更別村のどんぐり保育園における食育実践―（単著）（2013） 『十勝子ども白書 2013』 2. 子どもの育ちと親の育ちを支える地域子育て支援センター―地域子育て支援センターの実践を通して見えてきたこと―（単著）（2013）　『十勝子ども白書 2013』
	論 文	1. 結核感染児童の増加と予防対策―都市小児結核予防所設置（1939 年）を中心として―（単著）（2006） 『体育学研究』第 51 巻第 5 号 2. 寄生虫病児童の増加と予防対策（1931－1943 年）―地域の保健衛生対策に果たした小学校の役割―（単著）（2008） 『釧路短期大学紀要』第 35 号 3. 地域子育て支援センターの意義と課題―支援者による利用者との関係性の構築を中心に―（単著）（2010） 『帯広大谷短期大学紀要』第 47 号 4. 幼児期の運動遊びにおける指導の課題（単著）（2013） 『帯広大谷短期大学紀要』第 50 号 5. 幼児期における運動技術の系統的指導に基づく遊びの方法（単著）（2013） 『帯広大谷短期大学紀要』第 50 号
	その他	

フリガナ		ヤギヌマ　ヒロシ
氏　　名		柳沼　浩
学 位 等		仙台大学　体育学士　（1986/03）
担当科目		1. 生涯スポーツ指導演習（体つくり運動）
業績	著 書	
	論 文	1．実生活に生かすことを目的とした「体づくり運動」の実践例 ーイス・ストレッチー（共著）（2016）
	その他	1. 道庁　幼児の生活習慣改善事業運動実技資料（共著）（2011） 2. 道庁　生活習慣改善啓発事業報告書（共著）（2011）（2012） 3. 道庁　温泉等を活用した健康づくり事業報告書（共著）（2013）（2014） 4. 石狩支庁　ヘルスツーリズムコーディネーター育成事業報告書（共著）（2015）

【別紙様式】

フリガナ		ヤコ　ナオコ
氏　　名		八子　直子
学 位 等		北海道教育大学教育学部札幌分校　特別教科（美術・工芸） 教育学士（1991/03）
担当科目		1. 絵画Ⅲ
業 績	著 書	1. 全道美術協会 60 周年記念企画展「60 年全道展の魅力」（共著）（2005） 2.「絵画の場合 2007」展覧会図録（共著）（2007） 3. 全道展 70 周年記念企画展「70 年新生する全道展」（共著）（2015）
	論 文	
	その他	1. アミューズランド 2006「スィートメモリーズ」－ビッグフェイスシリーズ出品　北海道近代美術館（単著）（2006） 2. 札幌美術展「Living Art-日常」－ビッグフェイス・山のあなたシリーズ出品　芸術の森美術館（単著）（2012） 3. 個展「山のあなたシリーズ」　さいとうギャラリー（単著）（2014） 4. 個展「山のあなたシリーズ 2016」法邑ギャラリー（単著）（2016）

フリガナ		ヨシダ　コウイチロウ
氏　　名		吉田　耕一郎
学 位 等		1. 北海道教育大学教育学士（1984/3） 2. 上越教育大学大学院学校教育研究科教育学修士（1986/3）
担当科目		1. こども理解
業績	著 書	1.「発表会－先生も仲間に入れて」（雑誌）月刊保育とカリキュラム（ひかりのくに社）vol43, no11, 132-135（1994） 2.「縦の情報伝達・育ち合いを模索する」（雑誌）月刊保育とカリキュラム（ひかりのくに社）vol45, no2, 71-74（1996） 3.「異年齢同士の交流の中から」（分担執筆）環境作りと援助の方法　柴崎正行（編）148-150（ひかりのくに社）（1997） 4.「教育・保育実習に思う」（雑誌）月刊保育とカリキュラム（ひかりのくに社）vol46, no9, 58（1997）
	論 文	1.「札幌市立幼稚園の障害児教育」乳幼児療育研究第６号 60-64（1993） 2.「自分の気持ちを逆説的に表現し、落ち着きがなく、かつ指示を受け入れることが困難な幼児との保育実践」乳幼児療育研究第１０号 93-97（1997） 3.「札幌市教育研究所幼児教育センターの紹介」子どもロジー第２号（北海道子ども学会）6-10（1998） 4.「北海道の子どものデータ」子どもロジー第２号（北海道子ども学会）152-163（1998） 5.「地域子育て支援センターの研究―実態と課題―」（共同研究）北海道における少子化に関する研究（北海道青少年育成協会）第１号１－５３（1999） 6.「北海道の子どもミニミニデータ」子どもロジー第３号（北海道子ども学会）38-43（1999） 7.「家族に関する意識の調査研究―「結婚と子育て」に対する若者の意識―」（共同研究）北海道における少子化に関する研究（北海道青少年育成協会）第２号（2000） 8.「北海道における地域子育て支援センターの実態と課題」北海道子ども学研究第４号 78-86（2000） 9.「北海道の子どもミニミニデータ」子どもロジー第４号（北海道子ども学会）38-43（2000） 10.「小学生の学校ストレスと自己主張性」（共同研究）北海道教育大学紀要(教育科学編)第 52 巻第１号 231-242（2001） 11.「幼稚園を取り巻く最近の現状について」北海道学校教育学会

		研究紀要第１５号　60-62（2003） 12.「滝川市における学童クラブ設置の経緯」北海道子ども学研究第７号 77-80（2003） 13.「いわゆる気になる子に対する臨床発達心理学的アプローチ」國學院短期大学紀要第２１巻（2004） 14.「幼稚園教諭の研修についての研究その１　研修制度と問題点」光塩学園女子短期大学紀要第９号　7－19（2006）
	その他	1.「アメリカの幼児教育施設研修報告」国際理解教育に関する研究委託報告（札幌市）（1992） 2.「アメリカの幼児教育施設一人旅」北海道国公立幼稚園国際交流研究会かいほう３ 69-76（1993） 3.「消え行くものではなくて、新たな存在意義のもとで－重度重複障害児者の大規模収容施設－」北欧福祉研修旅行報告書(デンマーク福祉研修実行委員会）42-44（1995） 4.「生活大国としてのデンマーク」北海道国公立幼稚園国際交流研究会かいほう４ 65-69（1995） 5.「少子化の影響」教育空知第５７１号（空知教育研究所）18-21（1999） 6.「これからの学校に期待すること～学童クラブと障がいのある子に関連して～」教育空知５９３号（２００３年春号）17-20（2003）

フリガナ		ヨシダ　サトミ
氏　　名		吉田　聡美
学 位 等		1. 武蔵野大学人間学学士　（2005/03） 2. 武蔵野大学大学院人間学研究科人間学修士（2011/03）
担当科目		1. スポーツ心理学　　※教職関連科目のみ掲載
業績	著書	1. 基礎から学ぶスポーツ心理学（共著）（2007） 2. 改定　増補版基礎から学ぶスポーツ心理学（共著）（2009） 3. スポーツメンタルトレーニング指導士活用ガイドワークブック（共著）（2010） 4. 基礎から学ぶスポーツ心理学ワークブック（単著）（2011） 5. 新版　基礎から学ぶスポーツ心理学（共著）（2012） 6. 資格に役立つスポーツ心理学ワークブック（単著）（2013） 7. 基礎から学ぶスポーツ心理学　改訂版（共著）（2016） 8. 改訂版　資格に役立つスポーツ心理学ワークブック（単著）（2016 年）
	論文	1. 情動状態とスポーツパフォーマンスの関係 - IZOF 理論に基づく情動のコントロール -（共同研究）（2006） 2. トリノパラリンピックにおける心理的サポートに関する実践研究（単著）（2007） 3. チームにおける情動状態の理解とチームパフォーマンスの向上（共同研究）（2012）
	その他	1. トリノ冬期パラリンピック競技大会帯同及びメンタルサポート実施報告（2006） 2. スポーツメンタルトレーニング実践報告 - いかに現場のニーズに応えるのか -（共著）（2008） 3. スポーツ医・科学トータルサポート事業-中学生に対する心理的サポートについての報告-（共著）（2011） 4. ロンドン 2012 パラリンピック競技大会本部役員として帯同及び心理サポート報告（共著）（2013） 5. メンタルトレーニングジャーナル - メンタルトレーニング実践講座～チームや試合へ帯同するうえでの留意点（2014） 6. 心理サポートにおける国際大会への帯同サポート事例報告 -ロンドン・インチョンアジアパラ大会帯同-（2014） 7. フィンランド　バイアスロン&クロスカントリーワールドカップ、心理スタッフとして帯同（2014） 8. 2015 アジアパラアーチェリー国際選手権大会帯同（2015） 9. パラバレーインターコンチネンタル（中国）大会に心理スタッフとして帯同（2016） 10. リオ 2016 パラリンピック競技大会に心理スタッフとして帯同し心理的サポートを実施（2016）

フリガナ		ヨシダ　シゲル
氏　　名		吉田　繁
学 位 等		1. 北海道大学医学研究科　修士（医科学）（2008/03） 2. 北海道大学医学研究科　博士（医科学）（2012/03）
担当科目		1. 微生物学（免疫学を含む）
業績	著 書	1. 「RT-PCR 法」 メディカルサイエンス 遺伝子検査学（有波忠雄ほか編），100-104，近代出版，東京，吉田　繁，小林清一（2012）
	論 文	1. Yoshida S, Takada A, Kajikawa M, Miyatake Y, Tomaru U, Sakai M, Chiba H, Maenaka K, Kohda D, Fugo K, Kasahara M*: Two Novel NKG2D Ligands of the Mouse H60 Family with Differential Expression Patterns and Binding Affinities to NKG2D. J. Immunol 180:1678-1685, 2008 2. Yoshida S*, Hige S, Yoshida M, Yamashita N, Fujisawa S, Sato K, Kitamura T, Nishimura M, Chuma M, Asaka M, Chiba H: Quantification of lamivudine-resistant HBV mutants by type-specific TaqMan minor groove binder probe assay in patients with chronic hepatitis B. Ann Clin Biochem 6:59-64, 2008 3. Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, Sadamasu K, Kondo M, Mori H, Ueda M, Tateyama M, Ueda A, Kato S, Ito T, Oie M, Takata N, Hayashida T, Nagashima M, Matsuda M, Ibe S, Ota Y, Sasaki S, Ishigatsubo Y, Tanabe Y, Koga I, Kojima Y, Yamamoto M, Fujita J, Yokomaku Y, Koike T, Shirasaka T, Oka S, Sugiura W*: Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan. Antiviral Res 88:72-79, 2010 4. Hige S, Yamamoto Y, Yoshida S, Kobayashi T, Horimoto H, Yamamoto K, Sho T, Natsuizaka M, Nakanishi M, Chuma M, Asaka M*: Sensitive assay for quantification of hepatitis B virus mutants by use of a minor groove binder probe and peptide nucleic acids. J Clin Microbiol 48:4487-4494, 2010 5. Yoshida S, Mohamed RH, Kajikawa M, Koizumi J, Tanaka M, Fugo K, Otsuka N, Maenaka K, Yagita H, Chiba H, Kasahara M*: Involvement of an NKG2D ligand H60c in epidermal dendritic T cell mediated wound repair. J Immunol 188:3972-3979, 2012 6. Ibusuki A, Kawai K, Yoshida S, Uchida Y, Nitahara-Takeuchi A, Kuroki K, Kajikawa M, Ose T, Maenaka K, Kasahara M, Kanekura T*: NKG2D Triggers Cytotoxicity in Murine Epidermal gammadelta T Cells via PI3K-Dependent, Syk/ZAP70-Independent Signaling Pathway. J Invest Dermatol 134:396-404, 2014

		7. Yoshida S, Hattori J, Matsuda M, Okada K, Kazuyama Y, Hashimoto O, Ibe S, Fujisawa S, Chiba H, Tatsumi M, Kato S, Sugiura W*: Japanese external quality assessment program to standardize HIV-1 drug-resistance testing (JEQS2010 program) using *in vitro* transcribed RNA as reference material. AIDS Res Hum Retroviruses. 31:318-325, 2015
	その他	1. 「皮膚創傷修復とγδT細胞」臨床免疫・アレルギー科, Vol. 58, 715-720, 科学評論社, 東京, 吉田　繁 (2012)